

第17回神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール

優良賞

雲雀丘学園高等学校2年

中森咲絢さん

野坂郁実さん

『じっとしていて、いのちよ。』

じっとしていて、いのちよ、じっとして。
いけのみずのように しずかになれば
くもやシダのはっぱのあいだを
さかながおよいでいるのが みえてくるよ。

おひさまのしたで
うとうとしている ちいさなカタツムリみたいに
じっとしてごらん。
そうすれば、そのかげが
ながく、もっとながく、
ずーっとながく のびていくのがみえるよ。
(あっ、たいへん！ながくなりすぎちゃった！)

みて、みて！
あそこでせのたかいくさのあいだを
なにかが うごいているよ。
じっとして、
ゆっくりね。
きゅうにうごいちゃだめ。
あのスイレンのはっぱから
かげがすーっと はなれていくのがみえた？

なんと、それは
オレンジいろのちいさなローラースケートをはいた
はずかしがりやの こどもガメさん！
「カメさんってスケートできるの？」
もちろん！
とってもじょうずなんだよ。
でも、
スピードスケートのたいかいでかつことは きたいしないでね！

さあ、きのはっぱを みあげてみよう。
ささやくようなかぜに ゆれているのがみえる？
1まい1まいのはっぱがうごくおと、
きこえるかな？

えだからはなれていく はっぱのおと

はっぱは

「ひゅーーーーっ！」

っててんでいくよ。

じゃあ、

そのむこうにひろがる そらはどうかな？

もしそらに うたがあったら、

どんなうたをうたうとおもう？

ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド

じっとしていて、いのちよ。じっとして

うつわのなかのフルーツみたいに。

そうしたら、

なつのしゃきとしたリンゴの

ちいさなはなうたが きこえるかもしれない。

それに、

ナシもナシらしいおしゃべりで

なかまになるかもね。

ほんとだよ、

バナナだって うたがとってもじょうず。

きいろやオレンジ、

ピンク、

それにあおいろの

あまいうたをうたうんだ。

しーっ。

じっとして、

ネズミみたいにしずかに。

そうしたら、

ちいさなネズミたちが

いえのなかをおどるみたいにはして、

そのままみちへでていく

ちいさなあしおとが きこえるかもしれない。

ねむっているときのからだみたいに

じっとしてごらん。

そうしたら、

しんぞうがうごいているのを かんじられるよ。

しんぞうはいつだって おきていて、

ずっとこどうをうっている。

ドクン、ドクン。

ドクン、ドクン。

こんなのはどう？

「なにもきこえない」っていうおとも

きこえるかな？

しずけさのなかには、

なにかがいます。

それって

もしかして、「きみ」じしんかな？

よあけに

じっとしてごらん。

あさのうたがきこえるころ、

たいようのひかりを かんじられるよ。

さあ、

たちどまって

くんくんとにおいをかいでみよう。

このほんのページのにおいはする？

それとも、

いぬのくちびるのにおい？

「いぬのくちびる!？」

いぬにとって、

においはどれも

とくべつで、

みんなちがう。

だからみちで「きみ」をみつけれられるんだ。

「きみ」はどんなにおいがするんだろう？

はるになったら、

あめのふるにおいや、

まいあさめをさます はなのかおりを

かんじられるかな？

ミツバチのみつみたい

あまく、

ゆっくりいきよう。

そうすれば、

ハチたちがあしでさわっていく

はなのあじを

ぜんぶあじわえるよ。

ミント
ヒマワリ
ミツバチ
ラベンダー
キンギョソウ
ブルーベル
き
ポピー

だって、
こがねいろのスプーン1ぱいの ハチミツをつくるには、
なんぜんものはなと、
まいじかん、なんびやくものはなをたずねることが
ひつようなんだから。

さあ、
くさのうえにすわっているところを そうぞうしてみよう。
さいしょはみどりしかみえない。
でも、
アリの1ぴきみつけた。
1ぴき、
2ひき、
3ひき、
4ひき……
そしてとつぜんきづく。
ほんとはもっともっと！たくさんいたんだ！

テントウムシや
ナメクジ、
ひらひらとまうチョウを見つける。
そらにはとりがとび、
そのうたごえがきこえる。

たいようのぬくもりを かおにうけて、
さきはじめてはなの かおりをかぐ。
ここでは
ほんのすこしのあいだでも、
なんじかんでも、
こころがおだやかで、
しずかになれる。